

日本ＮＧＯ連携無償資金協力「バットンバン州における地雷処理事業」住民参加型地雷処理活動終了式典の開催

９月４日（火）、バットンバン州において、我が国の日本ＮＧＯ無償資金協力を通じた地雷処理事業で実施していた住民参加型処理活動の終了式典が開催されました。事業実施主体である日本地雷処理を支援する会（以下「ＪＭＡＳ」という。）は、バットンバン州カムリエン郡タサエンコミューンにおいて、２００６年よりＣＭＡＣと協力して住民参加型地雷処置活動（以下「ＣＢＤプロジェクト」という。）を行ってきました。ＣＢＤプロジェクトは、地雷を処理し地域住民の自立を支援するというコンセプトの下、地域住民を雇用して住民とともに地雷処理を実施するというカンボジア国内で初めての取組でした。右プロジェクトにより、４２２haの土地が地雷から解放され、その土地はキャッサバ畑や水田等となり農家の生活向上に寄与し、また、日本企業も進出し２００名以上の雇用を生み出してきております。

右式典には、プライ・チャン・バットンバン州知事、オム・ポムロＣＭＡＣ副長官、谷川保行ＪＭＡＳカンボジア代表の他、約５００名の地域住民が参加し、日本大使館からは町田達也参事官が出席して、お祝いのスピーチを行いました。

式典では、冒頭、２００７年の地雷処理活動中に亡くなったＣＭＡＣ隊員の慰霊碑へ参拝を行いました。その後、谷川ＪＭＡＳ代表より、「地雷を除去するだけではなく、プロジェクトの構想に沿い、日本国内の企業や個人、NGOの協力もいただき、地域開発も併せて行ってきました。これからの地域の発展を願います。」と述べられました。

さらに、町田参事官から「本事業を通じて、多くの村民が地雷の恐怖から解放されたと思います。地雷が除去された地域においては地域住民の生活の安定、生活環境の改善そして地域コミュニティの更なる発展を願います。」と述べました。

最後に、プライ・チャン知事が日本のカンボジアの地雷処理に対する支援及びＪＭＡＳの活動について感謝の意を表した上で、「ＪＭＡＳ及びＣＭＡＣの活動は、地域住民のディマイナー採用による雇用創出及び地雷処理後の地域開発に繋がっています。タサエンで実施されたプロジェクトが今後の開発のモデルとなると思われる。」と述べました。

その後、地雷処理活動に参加した地元住民に対して感謝状が贈られ、式展は和やかな雰囲気の下に終わりました。



町田参事官のスピーチ



地域住民のディマイナー



地雷除去地に広がるキャッサバ畑



キャッサバ畑（接写）